

平成 26 年 5 月 29 日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720199

研究課題名(和文) 類別詞言語における類別詞および名詞複数形の(不)使用に関する対照言語学的研究

研究課題名(英文) A contrastive study of the (non-)use of classifiers and plurals in classifier languages

研究代表者

野元 裕樹 (NOMOTO, Hiroki)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・講師

研究者番号：10589245

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、類別詞(日本語の「個」や「つ」のような語)を持つ言語に関して、以下の2つの問題を研究した。第一に、日本語では「1個のりんご」の「個」は必ず必要だが、マレー語などでは「個」は必ずしも必要でない。このような文法的違いはなぜ存在するのか。第二に、類別詞を持つ言語では裸の名詞形(例：学生)が単一のものも複数のものも指しうる。その一方で、「学生たち」のように複数を表す名詞形も存在する。2つの形式はどのように使い分けられ、その背景にはどのような仕組みが存在するのか。

研究成果の概要(英文)：This study investigated the following two questions regarding languages with classifiers, i.e. words such as *ko* and *tsu* in Japanese. First, while the classifier *ko* in *ik-ko no ringo* in Japanese is obligatory, the classifier is not obligatory in its Malay equivalent. Why is there such a grammatical difference between the two language types? Second, in languages with classifiers, bare noun forms (e.g. *gakusei*) can refer to either singular or plural entities. At the same time, they also have noun forms that specifically express plural reference such as *gakusei-tachi*. How are these two forms distinguished, and what mechanism is involved to make the co-existence of the two distinct noun forms possible?

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学、言語学

キーワード：言語学 統語論 意味論 類別詞 数 マレー語 日本語 名詞

1. 研究開始当初の背景

Chierchia (1998)を発端とし、類別詞を持つ言語(例:日本語、マレー語)と類別詞を持たない言語(例:英語、タガログ語)の違いが何に起因しているのかについては多くの研究がなされてきた。これらの研究では、2つのタイプの言語の相違を、名詞の外延(Krifka 1995; Chierchia 1998, 2010)や数詞の外延(Wilhelm 2008)の違いに見出そうとした。このような主張の背景には、類別詞言語では、「数詞が名詞を修飾する際には、必ず類別詞が介在するものである」という暗黙の前提が存在する。しかし、そのような前提は北京語や日本語など研究の進んだ言語では顕著だが、私が専門とするマレー語をはじめとする多くの言語では、数詞が名詞を修飾する際に、類別詞の使用は必ずしも義務的ではない。このような事実から、類別詞が義務的な言語(例:日本語)と随意的な言語(例:マレー語)の違いは何に起因するのか、という新たな問題が生じる。この問題については、時折、「随意的類別詞言語には無形の類別詞が存在する」と述べられるだけで(Chung 2000; Csirmaz & Dékány 2010)、真剣に扱われることはなかった。

私は申請当時の研究で、[類別詞 NP] (NP:名詞句)の構造が単一体(singularity)の特性を外延に持つ、すなわち、類別詞の付く形式は名詞の単数形であると主張した。これに付随して、類別詞言語と非類別詞言語の違いは基本的数体系にあるという説も提案した。具体的には、下の図が示すように、類別詞言語では自然言語の3つの基本数範疇、すなわち単数、複数、一般数(=単数・複数を区別しない数)がすべて独立しているのに対し、非類別詞言語では一般数が他の基本数範疇と融合されている。

	単数	一般数	複数	例
類別詞言語	類別詞 + NP	NP	複数形 NP	日本語, マレー語
非類別詞言語	NP		複数形 NP	口語シンガポール英語
A				
B	NP		複数形 NP	標準英語、イタリア語
C	NP			マラガシ語、デネ諸語

類別詞言語がこのような、一般数が独立した範疇として存在する基本数体系を持つとすると、3つの数の使い分けがどのようになされるのが問題となる。というのは、一般数は、単複の区別をしないと同時に、単一体も複数体も表すことができるからである。単数

名詞と一般数名詞の使い分けについては特に問題は生じない。まず、日本語やマレー語のような言語では類別詞が生起する場合には、必ず数詞も生起するので、そもそも[類別詞 NP]という独立した構造があり得ない。次に、広東語や苗語など[類別詞 NP]が独立した構造として可能な場合には通常、定かた単数の解釈となる点で、一般数名詞との間に明確な使い分けが存在するということが私の申請当事の共同研究で分かっていた(Simpson, Soh & Nomoto 2011)。それに対し、一般数名詞と複数名詞の使い分けについては、「複数であることが重要である場合には複数形を使う」(Corbett 2000:14)という曖昧な記述ができる程度で、さらに研究を進める必要があった。

2. 研究の目的

上記のような研究の学術的背景に基づき、本研究では以下の2点を主要な研究課題に定め、これらを解明することを目的とした。

- ❖ 課題1: 類別詞が義務的な言語と随意的な言語の違い
- ❖ 課題2: 類別詞言語の「複数形名詞」と数について中立的であるとされる「裸名詞」の使い分けの実態とその理論的仕組み

また、マレー語研究の研究基盤整備として、言語コーパスの整備も目的とした。

3. 研究の方法

主に、マレー語、日本語、北京語を考察の対象とした。日本語と北京語については、先行研究がある程度存在するので、それらを批判的に検討した。また、他に関連する現象を持つ、ペルシア語やその他の言語についても先行研究や文法書に当たった。

マレー語、日本語、ペルシア語、北京語について、先行研究にあたるだけでなく、先行研究では明らかでない事項を母語話者への聞き取り調査により、調べた。

また、分析に必要なコーパス(特に、データが不足している口語マレー語)の整備も並行して行った。

4. 研究成果

- (1) 課題1: 類別詞が義務的な言語と随意的な言語の違い

先行研究の多くは名詞または数詞の意味の違いに答えを探ってきた。本研究では、これまでほとんど注目されてこなかった、随意的類別言語における類別詞を含む表現と含まない表現の意味解釈の違いを手がかりに、類別詞、名詞、数詞それぞれの意味を明らかにすることで、類別詞の(不)使用に関わる言語間の違いがなぜ存在するのかを解明した。

それによれば、類別詞の核となる機能は単

数の標示であり、名詞や数詞の意味に言語間の違いは存在しない。言語間の違いが存在するのは、「基本的数範疇（単数、複数、一般数）がどのように区分されるか」、「類別詞の統語的位置を名詞によって埋めることが可能か」の2点が言語間で異なるためであると結論した。つまり、言語間の差異は意味論でなく、形態統語論に存在する。類別詞言語と非類別詞言語の違いは単数が複数、一般数と形態上、区別されるかどうかによる。区別される言語では単数が類別詞で標示され、一般数が無標の形式となる。一方、区別されない言語では単数が無標で、複数と一般数は同一の有形の標示を受け、類別詞を持たない。類別詞が義務的な言語では類別詞の統語的位置は類別詞でしか埋められない。一方、類別詞が随意的な言語では類別詞の統語的位置は類別詞のその位置への（外的）併合または名詞（の移動）により埋められる。基本的数範疇の形態的標示法の違いは、種を表す名詞句の形式を決定することも明らかにした。

(2) 課題2：類別詞言語の「複数形名詞」と数について中立的であるとされる「裸名詞」の使い分けの実態とその理論的仕組み

2つの名詞形の使い分けの一つとして、複数形名詞には定性あるいは特定性に関わる意味が伴うことが先行研究で知られている。それに関して、先行研究では定性か特定性かいずれかであるとしているが、本研究ではそのいずれにもなりうるという結論に至った暫定的な分析としては、これらの意味は複数標識そのものから生じるのではなく、名詞に指示性を持たせる統語範疇（D）と数を担う範疇との間に統語的一致が起こるために生じると分析した。しかし、この仮説を支持する経験的事実は十分でないので、今後議論を詰めていく必要がある。また、定性と特定性のいずれにもなるという事実は、Dにこれらの意味を担う意味的演算子を両方想定するような、曖昧性による分析をとった。今後、定性と特定性について理論的分析を進めることにより、曖昧性によらず同じ事実が浮かび上がってくるような分析を目指す。

申請時には当然のものとして前提としていた、2つの名詞形の数による違い、すなわち「裸名詞形」だけが数について中立的であるという前提について、Kaneko (2013)の指摘により、再検討が必要になった。そこで容認性判断実験を行った。その結果、英語などで一般に用いられてきた、名詞句の数に関するテストが日本語ではうまく行かないことが分かった。日本語の複数形名詞の定性・特定性に関わる性質は、その他の多くの言語の複数形でも見られるので、同様の問題がこれらの言語にも生じる。この問題はかなり基本的な問題であるだけでなく、複数形名詞の意味の根幹に関わる重要な問題でもある。これについては、継続の科学研究費による研究で取り組む。

(3) 研究基盤整備

マレー語のコーパスの構築を行った。申請時に手元にあった約30時間の音声データ(東京外国語大学21世紀COE「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」(2002-2006年、研究代表者：川口裕司)で採集したデータ)のうち、文字化が済んでいないものを文字化し、文字化が済んでいるものについては文字化の再チェックを行い、間違いを修正した。研究期間中に、すべてのファイルについて、文字化とチェック2回を行うことができた。話し言葉のデータに加え、書き言葉のデータも新たに入手・収集した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5件)

Soh, Hooi Ling and Hiroki Nomoto. 掲載予定. Degree achievements, telicity and the verbal prefix *meN-* in Malay. *Journal of Linguistics*. 査読有.

Nomoto, Hiroki and Kartini Abd. Wahab. 2012. Kena adversative passives in Malay, funny control, and covert voice alternation. *Oceanic Linguistics* 51(2): 360-386. 査読有. DOI: 10.1353/ol.2012.0017

Soh, Hooi Ling and Hiroki Nomoto. 2011. The Malay verbal prefix *meN-* and the unergative/unaccusative distinction. *Journal of East Asian Linguistics* 20(1): 77-106. 査読有. DOI: 10.1007/s10831-010-9069-5

Simpson, Andrew, Hooi Ling Soh and Hiroki Nomoto. 2011. Bare classifiers and definiteness: A cross-linguistic investigation. *Studies in Language* 35(1): 168-193. 査読有. 10.1075/sl.35.1.10sim

Nomoto, Hiroki and Kartini Abd. Wahab. 2011. Konstruksi kena dalam bahasa Indonesia: Perbandingan dengan bahasa Melayu [インドネシア語の *kena* 構文：マレー語との比較]. *Linguistik Indonesia* 29(2): 111-131. 査読有. URL: http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/nomoto/kena_Indonesi a.pdf

[学会発表](計 11件)

Nomoto, Hiroki. 2013. Number in classifier languages. Linguistics Colloquium. 2月15日. 米国, ミネソタ大学.

Nomoto, Hiroki. 2013. Malay plurals and referentiality agreement. The 20th Meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association (AFLA). 5月17-19日. 米国, テキサス大学アーリントン校.

Nomoto, Hiroki and Kartini Abd. Wahab. 2013. On the person restriction on the agents in *di-* passives in Malay. The 23rd

Annual Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society (SEALS). 5月29-31日. タイ、バンコク、チュラロンコン大学.

野元裕樹. 2012. 受動文における外項抑制 / 結合価減少は必須か? 日本言語学会第144回大会. 6月16-17日. 東京外国語大学.

Nomoto, Hiroki and Ayaka Shirota. 2012. Consonants in Malay rhythmic reduplication. The 16th International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL). 6月22-24日. スリランカ, ケラニヤ.

Nomoto, Hiroki. 2012. Consonant-changing rhythmic reduplication in Malay as identity avoidance. The 19th Meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association (AFLA). 6月26-30日. 台湾, 台北, 中央研究院.

Kartini Abd. Wahab and Hiroki Nomoto. 2012. Passives without 'by' in Malay. The 19th Meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association (AFLA). 6月26-30日. 台湾, 台北, 中央研究院.

Nomoto, Hiroki. 2011. A general theory of bare "singular" kind terms. 29th West Coast Conference on Formal Linguistics (WCCFL). 4月22-24日. 米国, アリゾナ大学.

Nomoto, Hiroki and Kartini Abd. Wahab. 2011. Kena passives in Indonesian: A Malaysian perspective. The 15th International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL). 6月24-26日. インドネシア, 東ジャワ州, マラン.

〔図書〕(計 11件)

Nomoto, Hiroki. 2013. On the optionality of grammatical markers: A case study of voice marking in Malay/Indonesian. In Alexander Adelaar (ed.) *Voice Variation in Austronesian Languages*, 123-145. Jakarta and Tokyo: Universitas Katolik Indonesia Atma Jaya and Tokyo University of Foreign Studies. URL: <http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/71808/2/nusa5407.pdf>

野元裕樹、ウン・シンティ、ファリダ・モハメッド. 2013. マレーシア語の所有表現(データ). 『語学研究所論集 18』, 332-343. 東京外国語大学. URL: http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/content/s/ronshuu/jilr_18_sp_data_malay_Nomoto_etal.pdf

Nomoto, Hiroki. 2012. More on Austronesian nasal substitution. In M. Ryan Bochnak et al. (eds.) *Proceedings from the 45th Annual Meeting of the Chicago Linguistics Society*, 503-517. URL: <http://cls.metapress.com/content/07525Q3P>

3X0X4467

Nomoto, Hiroki. 2012. A general theory of bare "singular" kind terms. *Coyote Papers: Proceedings of the Poster Session of the West Coast Conference on Formal Linguistics (April, 2012)*, 90-99. Tucson, AZ: University of Arizona Linguistics Circle. URL: <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/nomoto/wccfl29-paper.pdf>

野元裕樹. 2012. マレーシア語のヴォイスとその周辺. 『語学研究所論集 17』, 55-72. 東京外国語大学. URL: <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/nomoto/voice-goken.pdf>

Nomoto, Hiroki and Nala Huiying Lee. 2012. Realis, factuality and derived-level statives: Perspectives from the analysis of Singlish *got*. C. Nishida and C. Russi (eds.) *Building a Bridge between Linguistic Communities of the Old and the New World: Current Research in Tense, Aspect, Mood and Modality*, 219-239. Amsterdam: Rodopi.

Nomoto, Hiroki, Anwar Ridhwan and Zaharani Ahmad (編). 2011. *Isamu Shoho: Tinta Kenangan "Kumpulan Esei Bahasa dan Linguistik"* [正保勇: 退官記念「言語と言語学に関する論集」]. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka. 430.

Nomoto, Hiroki. 2011. Teori tambatan dalam bahasa Melayu [マレー語における束縛理論]. 『東京外大東南アジア学 16』, 1-16. 東京外国語大学. URL: <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/nomoto/TeoriTambatanBM.pdf>

野元裕樹. 2011. マレーシア語のモダリティの概要. 『語学研究所論集 16』, 130-150. 東京外国語大学. URL: <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/nomoto/modality-goken.pdf>

Nomoto, Hiroki. 2011. Analisis seragam bagi kawalan lucu [おかしなコントロールの統一的分析]. In H. Nomoto et al. (eds.) *Isamu Shoho: Tinta Kenangan "Kumpulan Esei Bahasa dan Linguistik"*, 44-91. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka. URL: <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/nomoto/KawalanLucu.pdf>

〔その他〕

Nomoto, Hiroki. 2013. *Number in Classifier Languages*. ミネソタ大学博士論文. URL: <http://hdl.handle.net/11299/148854>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野元 裕樹 (NOMOTO, Hiroki)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・講師

研究者番号: 10589245